

## 「がん進展制御研究所セミナー」を開催

2018年3月20日

3月20日（火）に、金沢大学がん進展制御研究所4F会議室において、国立がん研究センター研究所造血器腫瘍研究分野 北林一生 分野長、がん分化制御解析研究分野 岡本康司 分野長をお招きして、がん進展制御研究所セミナーを開催しました。

セミナーでは造血器腫瘍と固形腫瘍のがん幹細胞のあたらしい治療戦略について講演していただきました。

新薬の開発状況などにも触れていただき大変有意義なセミナーとなりました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等約30名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



北林一生 先生



岡本康司 先生



がん進展制御研究所 セミナー

がん進展制御研究所と国立がん研究センターとの連携による  
研究交流推進のため、お二方にセミナーをお願いしました。

# がん幹細胞の成立維持機構の 解明から新規治療法の開発へ

国立がん研究センター研究所

造血器腫瘍研究分野

分野長

**北林 一生 先生**

日時：平成30年3月20日（火）

午後4時～午後5時

場所：がん進展制御研究所 4F 会議室

がん幹細胞は様々なゲノム変異やエピゲノム異常により成立維持され、治療抵抗性や再発の原因となる。我々はその分子機構を解明し、がん幹細胞の根絶による新規治療法の開発を進めている。基礎から早期臨床までの取組を紹介する。

連絡先：後藤（6730）、高橋（6750）

がん進展制御研究所 セミナー

がん進展制御研究所と国立がん研究センターとの連携による  
研究交流推進のため、お二方にセミナーをお願いしました。

# 大腸、卵巣がん幹細胞の 発生進展メカニズムの解析

国立がん研究センター研究所

がん分化制御解析研究分野

分野長

**岡本 康司 先生**

日時：平成30年3月20日（火）

午後5時～午後6時

場所：がん進展制御研究所4F会議室

我々のグループでは、マウス炎症発がんモデル及び手術検体由来スフェロイドの移植腫瘍モデルを用いて、主にシングルセル発現解析による大腸がん幹細胞の動態解析を行なっているが、大腸がんにおいて増殖の遅いがん幹細胞群が存在する事を見出したので発表する。又、卵巣がんスフェロイドを用いた解析についても報告する。

連絡先：後藤（6730）、高橋（6750）